

今週の富大生

Weekly TOMIDASEI

第30号

経済学部 経済学科
社会データサイエンスコース
2年
長野県大町岳陽高等学校
(長野県)

まちなかシェアハウスの学生と家族のように



選択に影響を与えた山村留学の経験

中学までは家族で東京に住んでいました。幼いころからキャンプが好きだったこと、小学生で海外に短期ホームステイにいった経験もあり、親元を離れることに抵抗はありませんでした。

小学校5、6年生の時に山村留学をし、長野県の泰阜町で過ごしました。五右衛門風呂を沸かし、みんなでご飯を作り、すべてが自主性に委ねられる生活でした。

自然と触れ合うことも、共同生活も楽しかったです。

山村留学の経験に加え、両親も田舎暮らしを考えていたことで、高校進学と同時に、家族で長野へ移住しました。

進路選択時の父からの助言

父からは幼少期から「大学は国公立のほうが良い」と言われていました。それは、私立大学出身の父が私立大学と国公立大学では教員と学生の比率が全然違うことを知っていたからでした。国公立大学のほうが学生一人ひとりに目が行き届くといわれ、きちんと学べる環境を望んで国公立大学を目指して受験勉強しました。

受験時にシェアハウスに興味

富山大学受験時に、「fil」(まちなか学生シェアハウス)のことを知りました。山村留学の経験から共同生活の楽しさを知っていましたし、富山のまちなかに近いことや、filの学生がまちなかイベントに参加していることも楽しそうだと思いました。合格後にfilへの入居を決めました。

filでの生活

私が生活しているフロアには6人の女子学生が住んでいて、共有スペースでくつろいでいるときによく会話します。filではまちなかイベントにも参加する機会が多いので、企画の話し合いなどまじめな話をすることもあります。色々な会話や経験を共有するからこそ、何でも話せて心地の良い家族のような関係性です。

まちなかイベントの参加

filでは居住条件に「まちなかイベントへの参加」があります。学生主体の活動が主に①まちなか学生エキスポ (filがある総曲輪地区で、学生が主体となって企画するイベント) ②fil meet (filの学生と富山県の企業の社長と交流する会) の二つあり、そのほかにもfilの管理会社の富山市民プラザから市やほかの団体のイベント案内をもらいます。参加することで知り合う人々とのつながりも楽しいです。

「まちなか学生エキスポ2024」では、全体の統括の役割を担いました。出店者を集め、ステージ企画や学生スタッフの配置決めを行うなどの経験をしました。普段からまちなかイベントに関わり、顔見知りの学生に出店を依頼することができたり、色々なイベント参加で得た、人とのつながりが、役に立ちました。



お世話になった高校の先生へ

本格的に勉強を始めるのが遅かった私に、根気強く教えていただきありがとうございました。おかげで今、とても充実した大学生活を送っています。

まちなか学生シェアハウス fil
<https://fil-toyama.com/>

